

# 安全に避難するために

## ● 土砂災害から身を守るためのポイント

### 1 住んでいる箇所が「土砂災害(特別)警戒区域」かどうか確認

土砂災害発生のおそれのある場所は「土砂災害(特別)警戒区域」とされています。あらかじめ自分の家が土砂災害(特別)警戒区域にあるかどうか、このハザードマップやさぬき市のホームページなどで確認しましょう。

### 2 雨が降り出したら土砂災害警戒情報に注意

雨が降り出したら、「土砂災害警戒情報」に注意してください。テレビやラジオの気象情報で発表されるほか、気象庁や、さぬき市のホームページなどで確認できます。特に、急に強い雨が降ってきたときや、ずっと雨が降り続けているときには、土砂災害が発生するおそれがあるので警戒が必要です。

### 3 危険を感じたら早めに避難

お年寄りや障害のある人など避難に時間がかかる人は、移動時間を考えて早めに避難することが大切です。また、土砂災害の多くは木造の1階で被災しています。どうしても避難場所への移動が困難なときは、近くの頑丈な建物の2階以上に緊急避難するか、それも難しい場合は家の中でより安全な場所(がけから離れた部屋や2階など)に避難しましょう。

#### 避難場所への移動が困難な場合



## 要配慮者への避難支援

要配慮者とは、災害発生時に避難の手助けが必要な人々のことです。一般に高齢者や障害者、乳幼児や妊産婦、日本語を十分理解できない外国人の方々などが該当します。地域で協力しあいながら、要配慮者の安否確認、避難施設への移動を支援しましょう。

#### 高齢者・病人

- おぶって安全な場所まで避難する。
- 複数の介助者で対応する。



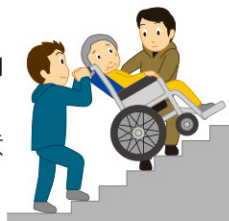
#### 目の不自由な方

- 声をかけ情報を伝える。
- 誘導する場合は、杖を持った方の手には触れず、ひじのあたりを軽く持ってもらい、半歩手前をゆっくり歩く。



#### 肢体の不自由な方(車椅子)

- 階段では2人以上が必要。上りは前向き、下りは後ろ向きにして移動する。
- 介助者が1人の場合、ひもなどを用意し、おぶって避難する。



#### 耳の不自由な方

- 話すときは、口をハッキリと開け、相手にわかりやすいようにする。
- 手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝える。



#### 外国人の方

- 話すときは、やさしい日本語で話しかける。
- 身振りや手振りで話しかけ、孤立しないようにする。

× 避難している → ○ 逃げている

やさしい日本語に置き換えて伝える

